

## 東円寺

東円寺の歴史は9世紀初頭、有名な僧で、死後は弘法大師として知られるようになった空海が日本の東国巡錫に出たときに始まります。富士山の北東部に神聖な泉を発見した空海は、昔より山と関連付けられてきた密教の本尊、大日如来を祀るための参拝所を建立させました。この寺は1711年に現在の所在地に遷宮し、最近再建されたのは1865年でした。

本尊は、悟りを開いた信者を極楽浄土に歓迎する阿弥陀仏で、両脇に観音菩薩と勢至菩薩が配されています。この寺には、1317年に作られたもう1体の木造観音像があります。この観音像は、当初は近くにある忍草浅間神社のもので、この神社の女神、木花咲耶姫の像を彫ったのと同じ彫刻家が彫ったものです。神道と仏教は数世紀にわたって神仏習合関係にあり、東円寺は、忍草浅間神社との緊密な関係はその歴史の大半において共有していました。この関係は、政府が神道から仏教の影響をすべて取り除くことを試みた明治時代まで続きました。

19世紀になると、この寺は、富士講巡礼者が富士山に登る前の禊に使った忍野八海の開発を監督しました。富士講信仰は、幕府が富士山への入山を規制せざるを得ないほどに大いに普及しました。東円寺は、巡礼者への通行を許可することができた唯一の仏教寺院でした。そしてその結果として絶え間なく訪れる巡礼者がこの貧困にあえぐ村の再活性化に一役買いました。